

2010年度 Vol.2 特集「学力下位層が伸びる授業づくり」へのご意見

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』中学版のバックナンバーは「Benesse教育研究開発センター」ウェブサイト(<http://benesse.jp/berd/>)でご覧いただけます。

◎全日本中学校長会総務部長の大江近先生のインタビューを興味深く読みました。自分が教師として駆け出しの頃感じていた、生徒の学力をいかに伸ばすかという視点、管理職としての経営という発想に、改めて考えさせられました。[長崎県/K中学校/O・S]

◎大江先生が強調されていた「学級集団のダイナミクスを活用する」という視点は不易なものであると考えています。どの記事も読んで面白く、ためになりました。[福島県/M中学校/K・T]

◎大竹市立大竹中学校が、5つの共通実践のそれぞれを5つのレベルに分け、少しでもレベルアップにつなげていこうとする姿勢が参考になりました。[山形県/N中学校/K・K]

◎「荒れた学校の立て直しは授業改善から」とはよく言われるところですが、大竹市立大竹中学校が、教師全員で協同体制を組み、システム化された取り組みを実践していることがとても参考になりました。[東京都/K中学校/W・F]

◎「5つの共通実践」の設定や「授業を変えることで生徒たちを変えていこう」とする大竹市立大竹中学校の姿勢に大きな共感を覚えるとともに、本校でもぜひ実行したいと思いました。また、課題整理のページも最初は戸惑いましたが、読み慣れると有用でとても良いページだと思いました。[栃木県/S中学校/W・A]

◎横須賀市立池上中学校が取り組んでいるグループ活動は、本校でも重視している活動であり、とても共感できる内容でした。[富山県/F中学校/O・M]

◎横須賀市立池上中学校の「授業記録」の活用方法をもう少し詳しく記述してほしいです。月2回の授業研究の時間をどうやって確保しているのかも気になります。記事を読んだだけでは納得できませんでした。[茨城県/Y中学校/K・T]

◎教科を超えた授業基準の育成法と、検証のための生徒による授業評価を実施している、大阪市立花乃井中学校の実践に刺激を受けました。[大阪府/K中学校/K・F]

◎大阪市立花乃井中学校で実践されていた「生徒による授業評価項目」が参考になりました。本校でも使ってみたいと思います。[山口県/U中学校/M・M]

◎由利本荘市立大内中学校が、「学び残しをなくす」という発想から60分授業を取り入れたことに関心を持ちました。同時に、この授業を50分で実施できないかと考えています。[鳥取県/S中学校/N・Y]

◎50分を基本に授業時間を短くしたり、長くしたりすることはよくあることですが、生徒の集中力の持続という点から、由利本荘市立大内中学校の実践に興味を持ちました。[兵庫県/N中学校/S・K]

◎由利本荘市立大内中学校のように、60分授業を実施すると、よい意味で授業中に「休み」や「おしゃべり」する時間が生まれ、生徒がリフレッシュできるという面もあります。授業時間は確かに延びますが、うまくその時間を使うことで、生徒が集中しやすくなる面もあるのではないかと感じました。[神奈川県/S中学校/T・K]

編集後記

中学校における導入期の指導について考えることは、最終的には、小学校との連携を考えることにつながります。春休みの課題や、入学直後の復習テスト、合宿……。今回取り上げた実践は、いずれも小学校の理解があるからこそ成立しているものだと思います。対談で瀬上先生が指摘された「9年間を通して生徒を見る視点」の大切さを改めて感じました。(渡邊)

VIEW21 中学版 2010 Vol.3

2010年11月9日発行/通巻第307号

発行人 新井健一
 編集人 原 茂
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション
 Benesse教育研究開発センター
 印刷製本 大日本印刷(株)
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆協力 二宮良太、山口慎治
 撮影協力 川上一生、坂井公秋、南弘幸

◎お問い合わせ先

VIEW21編集部
 電話 **03-5371-1238**
 〒163-1422 東京都新宿区西新宿3-20-2
 東京オペラシティタワー 22階

©Benesse Corporation 2010